

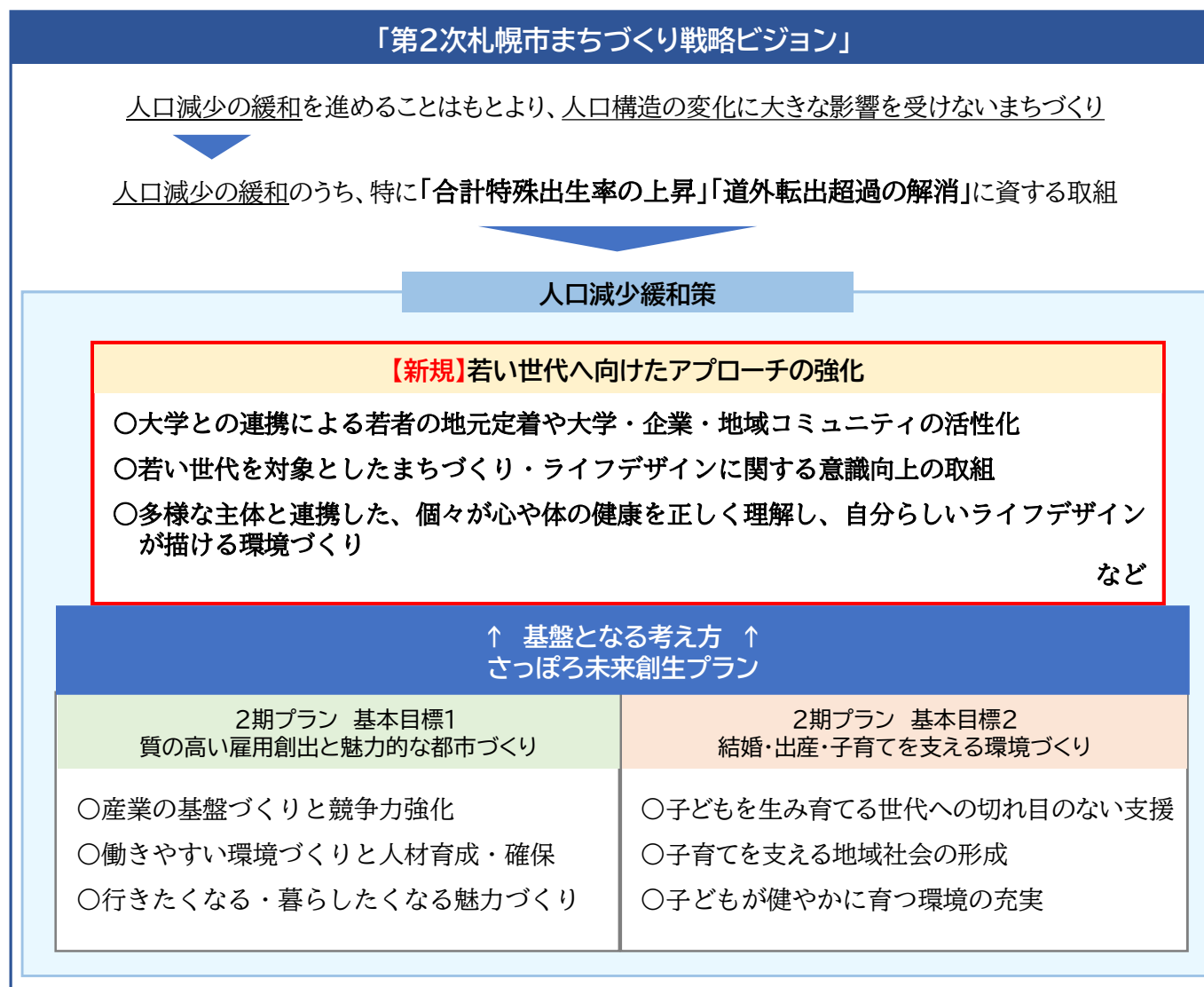
現状

- ◆ 札幌市の人口はこれまで一貫して増加傾向にあったが、住民基本台帳に基づく2022年1月1日時点の人口は、政令指定都市への移行後初めて減少に転じ(197万2381人(前年比907人減))、コロナの影響もあり先行きは見通せないが、長期的には更なる人口減少が見込まれるところ
- ◆ 合計特殊出生率は1.09(2020年)と政令指定都市の中で低位に位置し、20~29歳は大幅な道外転出超過(1,446人(2021年))の状況
- ◆ 札幌市では、人口減少の緩和に向けて、2020年3月に策定した「第2期さっぽろ未来創生プラン(以下「2期プラン」という。(計画期間:2020~2024年))」の基本目標「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」に基づき、様々な取組を進めているものの、新型コロナウイルスの感染拡大の影響も重なり、状況は悪化

施策の方向性

- 2期プランの基本目標に基づく取組を推進するとともに、2期プランの取組が就業や子育ての主体となる世代に主眼を置いていることを踏まえ、将来的な地元定着等に向けた長期的な視点からの取組として、より若い世代へ向けたアプローチを強化
- 札幌市には大学等の研究機関が集積していることを踏まえ、若者と接点を持つ大学に着目し、北海道大学を始めとした札幌圏の各大学との連携を強化する
 - 大学生以外の若い世代(専門学生、中高生等)も含めた取組を強化する

戦略ビジョンにおける人口減少緩和策の位置づけ



主な施策

2期プラン 基本目標1(質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり)関係

○ 質の高い雇用創出に向けた経済の活性化や、社会経済情勢の変化に対応できる経済基盤の確立を図る

- ・ スタートアップへの支援、成長分野の企業等の誘致や本社機能の移転に対する支援を強化、
- ・ 幅広い年代の人材育成及び就労促進、社会全体で子育てを支える機運の醸成、
- ・ 観光・スポーツ・文化芸術といった様々な側面からの札幌の魅力向上 など

2期プラン 基本目標2(結婚・出産・子育てを支える環境づくり)関係

○ 子どもを産み育てたい方々の希望が叶えられ、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を図る

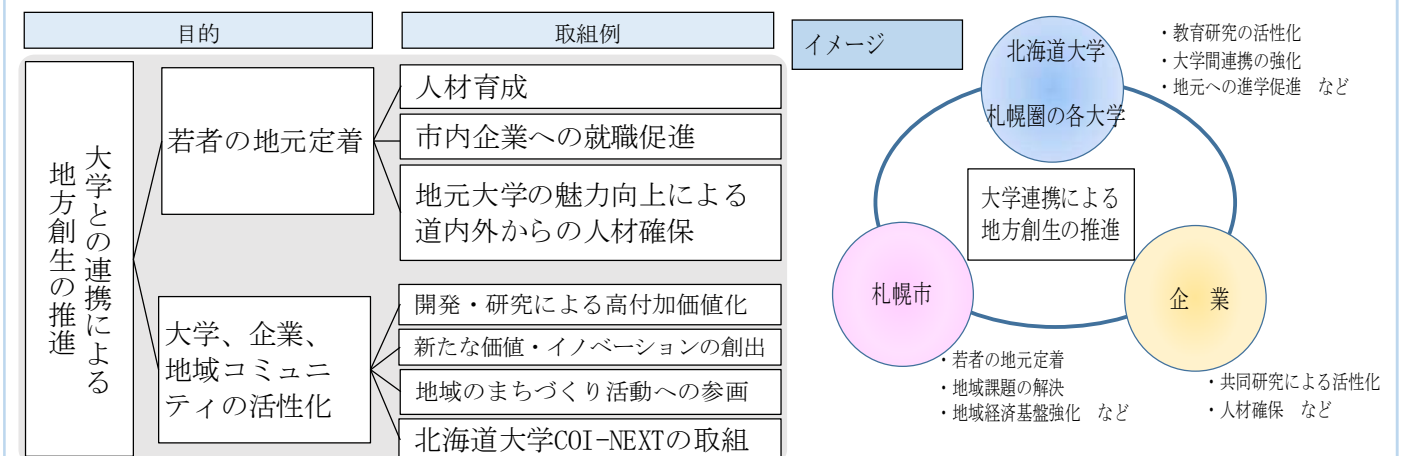
- ・ 結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービスの充実及び家計負担の軽減
- ・ ワークライフバランスやの更なる浸透、多様な学びを支える環境の充実 など

若い世代へ向けたアプローチの強化

○ 大学との連携による若者の地元定着や大学・企業・地域コミュニティの活性化

【北海道大学】
北海道大学との連携により戦略的なまちづくりを加速する

【札幌圏の大学】
大学間の連携強化に向けた支援と地域に根差した取組の支援を実施



○ 若い世代を対象としたまちづくり・ライフデザインに関する意識向上の取組

⇒ 大学生以外の若い世代(専門学生、中高生等)に対し、ライフデザインに関する意識向上の取組や、地元の魅力や特色を学ぶ機会を充実させる取組により、地元定着や、例え転出しても引き続き札幌に関わってもらおうこと(関係人口等)を目指す



○ 多様な主体と連携した、個々が心や体の健康を正しく理解し、自分らしいライフデザインが描ける環境づくり

⇒ 北海道大学が企業や自治体と連携し、幅広い世代の男女に向けた健康、妊娠、出産、育児に関する理解の促進等をテーマとしたプロジェクトCOI-NEXT)を実施中(事業期間10年間)

⇒ 札幌市もこのプロジェクトに参画し、妊娠後のケアはもとより、妊娠前から身体や性への正しい理解を深める取組(プレコンセプションケア)を進めることで、一人一人の人生設計における様々な選択を可能とし、地元への定着や結婚、出産、育児に希望が持て、子どもを産み育てたいと思える環境を実現していく

